鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本語教育Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0088	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	材料工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：プリント学習および聴解教材参考書：英和辞典，和英辞典，国語辞典，漢和辞典，その他，各自の自主教材.		
担当教員	加藤 彩		

到達目標

感じたこと，考えたことを日本語で思う存分表現できる能力を身につけるとともに，日常のコミュニケーションを円滑に行う能力を養う.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本語によるレポートや小論文の応用的な作成ができる.	日本語によるレポートや小論文の基本的な作成ができる.	日本語によるレポートや小論文の作成ができない.
評価項目2	これまで身につけた日本語を十分に活用した応用的な口頭発表・意見交換ができる.	これまで身につけた日本語を十分に活用した基本的な口頭発表・意見交換ができる.	これまでに身につけた日本語を十分に活用した口頭発表・意見交換ができない.
評価項目3	日本語能力試験を視野に入れた応用的な問題を解き，身につけることができる.	日本語能力試験を視野に入れた基本的な問題を解き，身につけることができる.	日本語能力試験を視野に入れた問題を解き，身につけることができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科目では，日本語教育ＩＡ・ＩＢで学習した内容を更に発展させ，レポートや小論文の作成，口頭発表を通じて一層の日本語能力の充実を目指す．また，日本語能力試験Ｎ１取得を視野に入れた学習も行う.
授業の進め方・方法	・すべての内容は学習・教育目標（Ａ）の＜視野＞，（Ｃ）の＜発表＞，およびJABEE基準1（1）（a)，（ｆ）に対応する. ・授業は主に演習形式で行う. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.
注意点	〈到達目標の評価方法と基準〉上記の「知識・能力」を網羅した問題を１回の中間試験，１回の定期試験とレポートで出題し，目標の達成度を評価する．達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする．合計点の６０%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す. 〈学業成績の評価方法および評価基準〉中間試験・定期試験により６０%，レポート・小テスト等の結果を４０%として評価する. 〈単位修得要件〉学業成績で６０点以上を取得すること. 〈あらかじめ要求される基礎知識の範囲〉実際の日常生活において，分からない言葉，ことがらなどをメモしておく．授業で取り扱ったプリント以外にも積極的に日本の小説や評論，新聞やニュース番組などに触れ，豊かな表現力を身につけることが望ましい．なお，本教科は，「日本語教育ＩＡ」「日本語教育ＩＢ」の学習が基礎となる教科である. 〈自己学習〉授業で保証する学習時間と，予習・復習（中間試験，定期試験，小テストのための学習も含む）及び，レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が４５時間に相当する学習内容である. 〈備考〉授業だけではなく，日本における実際の日常生活の中において何ごとも「積極的」，「意欲的」に取り組むように努力する．特に，後半の実践授業については，学習者主体の授業になるので，積極的に材料の収集や調査に努め，意欲的に発表を行うこと.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	中級段階の作文力の総復習	１．「漢字・語彙・作文力・読解力」の応用力の養成⑴： 中級～上級程度の漢字・単語・慣用句表現を習得している. ２．「漢字・語彙・作文力・読解力」の応用力の養成⑵： 「書き言葉」としての人称語・接続詞・副詞などの日本語特有の表現を使用することができる.
		2週	中級段階の口頭発表力の総復習	３．「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展⑴： 丁寧語・待遇表現，および「公な場」での「話し言葉」を使って発表することができる.
		3週	読解学習（１）	４．「漢字・語彙・作文力・読解力」の応用力の養成⑴： 中級～上級程度の漢字・単語・慣用句表現を習得している. ５．「漢字・語彙・作文力・読解力」の応用力の養成⑵： 「書き言葉」としての人称語・接続詞・副詞などの日本語特有の表現を使用することができる.
		4週	読解学習（２）	上記４・５に同じ.
		5週	読解学習（３）	上記４・５に同じ.
		6週	読解学習（４）	上記４・５に同じ.
		7週	読解学習（５）	上記４・５に同じ.
		8週	中間試験	１～５で学習した内容を正しく使うことができる.
	4thQ	9週	文章の構成を学ぶ（１）	６．「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展⑴： 丁寧語・待遇表現，および「公な場」での「話し言葉」を使って発表することができる. ７．「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展⑵： 授業内容全体を通して，「話し言葉」「書き言葉」や「私的な言葉」「公の言葉」の違いを理解している.
		10週	文章の構成を学ぶ（２）	上記６・７に同じ.
		11週	文章の構成各論（書き出しと中身を考える）（１）	上記６・７に同じ.
		12週	文章の構成各論（話題の発展と結びを考える）（２）	上記６・７に同じ.

		13週	評論文の実践	８．「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展⑶： 様々な表現・語彙を使い，自分の考えを小論文や口頭発表として適切に表現することができる.
		14週	口頭発表力の養成	９．「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展⑷： 発表する時のマナーや「聞く人」のマナー，意欲の大切さについて理解している.
		15週	メールや手紙の書き方	１０．「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展⑸： メールや手紙を相手に合わせた表現で書くことができる.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	20	0	100
配点	60	20	0	0	20	0	100